

水稲用 初・中期一発処理除草剤

シンスイZ®

1キロ粒剤 豆つぶ[®]250 ジャンボ フロアブル



ノビエ



ホタルイ



オモダカ



※1キロ粒剤のみ



※1キロ粒剤のみ



※ジャンボ剤を除く

4成分が魅せる、防除効果の神髄

- 有効成分エフィーダ[®](一般名フェンキノトリオン)配合
- ノビエに卓効(ノビエ4葉期まで幅広く使用可能)
- ホタルイ・クログワイ・オモダカに卓効
- 4成分で幅広い雑草を防除



※商品画像はイメージです。®はクミアイ化学工業(株)の登録商標



エフィーダ[®]配合
問題雑草に広く効く!!

自然に学び自然を守る



- 有効成分：オキサジクロメホン…0.8% (1キロ粒剤)、2.4% (豆つぶジャンボ)、1.1% (フロアブル)、フェンキトリオン…3.0% (1キロ粒剤)、12.0% (豆つぶジャンボ)、5.4% (フロアブル)、プロピリスロン…0.9% (1キロ粒剤)、3.6% (豆つぶジャンボ)、1.6% (フロアブル)、プロモプチド…9.0% (1キロ粒剤)、36.0% (豆つぶジャンボ)、16.1% (フロアブル)
- 人畜毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指す)という通称

特長

- 有効成分エフィーダ® (一般名フェンキトリオン) を配合した4成分の混合剤です。
- 発生前から4葉期のノビエに対して優れた除草効果を発揮します。
- ホタルイ、クログワイ、オモダカ等の難防除草剤に対しても高い効果を示します。
- 既存の4-HPPD阻害剤に感受性の高い飼料用稲等栽培時にも使用できます*。

*既存の4-HPPD阻害剤に感受性が高いとされる、やまだわら、よめき、タカナリ、モミロマン、ミスホチカラ、ノビタキ、おどろきもち、ふくおこし、えみだわら、もみゆたか、みなちからに対し、エフィーダは高い安全性を示すことを確認しています。WCSPに関しては別途、稲発芽阻害剤生産・給与技術マニュアルを確認の上、ご使用願います。

- 1キロ粒剤は田植同時処理が可能です。

適用雑草及び使用方法

2023年10月現在の登録内容

*各有効成分を含む農業の総使用回数:オキサジクロメホン2回以内、フェンキトリオン2回以内、プロピリスロン2回以内、プロモプチド2回以内

1キロ粒剤 (農林水産省登録 第24447号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ ヘラオモダカ、ヒルムシロ、セリ、オモダカ クログワイ、コウキヤガラ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植時	1kg	1回※	田植同時散布機で施用
		移植直後～ノビエ4葉期 但し、移植後30日まで			湛水散布又は無人航空機 による散布
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで			

豆つぶ250 (農林水産省登録 第24448号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及び 多年生広葉雑草	移植後3日～ノビエ4葉期 但し、移植後30日まで	250g	1回※	湛水散布、湛水周縁散布、 水口施用又は 無人航空機による散布
直播水稲	一年生雑草及びホタルイ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで			湛水散布又は無人航空機 による散布

ジャンボ (農林水産省登録 第24449号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及び 多年生広葉雑草	移植後3日～ノビエ4葉期 但し、移植後30日まで	小包装 (パック) 10個 (250g)	1回※	水田に小包装(パック) のまま投げ入れる。
直播水稲	一年生雑草及びホタルイ、ウリカワ ミスガヤツリ、ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで			

フロアブル (農林水産省登録 第24450号)

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール 当り 使用量	本剤の 使用回数	使用方法
移植水稲	一年生雑草及びマツバイ、ホタルイ ウリカワ、ミスガヤツリ、ヘラオモダカ ヒルムシロ、セリ、オモダカ、クログワイ コウキヤガラ、エソノサヤナガサ アオミドロ・藻類による表層はく離	移植後3日～ノビエ4葉期 但し、移植後30日まで	500ml	1回※	原液湛水散布 又は水口施用
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ、ウリカワ、ミスガヤツリ ヒルムシロ、セリ	稲1葉期～ ノビエ3.5葉期 但し、収穫90日前まで			原液湛水散布

上手な使い方



■使用上の注意 (抜粋)

- 【共通】
- 本剤は雑草の発生前から生育初期に有効なので、ノビエの4葉期までに時期を失いように散布してください。なお、多年生雑草は生育段階によって効果にふれが出るので、必ず適期に散布してください。エソノサヤナガサ(フロアブル)は2葉期まで、ヘラオモダカ、ウリカワは3葉期まで、ホタルイは4葉期まで、オモダカは矢張り1葉期まで、シズイ(豆つぶ250、ジャンボ)は草丈3cmまで、クログワイ、ミスガヤツリは草丈10cmまで、コウキヤガラは発生始期まで、ヒルムシロは発生盛期まで、セリは再生期まで、アオミドロ・藻類による表層はく離(1キロ粒剤、フロアブル)は発生前が本剤の散布適期です。
 - オモダカ、クログワイ、コウキヤガラ、シズイ(豆つぶ250、ジャンボ)は発生期間が長く、遅い発生のものでは十分な効果を示さないで、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
 - 雑草をまたらす栽培目的以外のイネの防除に使用する場合は、発生前が有効なので散布適期を失いように散布してください。また、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
 - 苗の植付けが均一となるように、代かき及び植付作業は十分に丁寧に行ってください。未熟有機物を施用した場合は、特に注意しに行ってください。
 - 以下のような条件下では薬害が発生するおそれがあるので使用を控えてください。
 - 異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時
 - 活着遅延を生じようとする低温の時
 - 砂質土壌の水田および漏水田(漏水深2cm/日以上)
 - 軟弱苗を移植した水田
 - 極端な浅植えの水田および浮き苗の多い水田
 - 圃場の戻りの悪い水田
 - 直播水稲に使用する場合は、以下の点に注意してください。
 - 圃場の盛り出した条件下では薬害を生じるおそれがあるので使用を控えてください。
 - 除草効果の低下と生育抑制の薬害が生じるおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後に散布してください。
 - 梅雨時期等、散布後に多量の降雨が予想される場合は、除草効果が低下するおそれがあるので使用を控えてください。
 - 散布した水田の田面水を他の作物の灌水に使用しないでください。
 - 本剤は自己殺草特効力があり、せんこん、せり、わいなど生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田に使用する場合は十分に注意してください。
 - 本剤の使用については、使用量、使用時期、使用方法など必ず注意するように注意するほか、別途提供されている技術情報も参考にしてください。特に初めて使用する場合は、異常気象等の場合は、病害虫防除等関係機関の指導を受けることをお勧めします。
- 【1キロ粒剤】
- 散布の際は、水の出入りを止めて湛水状態のまま田面に均一に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
 - 1キロ粒剤(豆つぶ250)
 - 無人航空機で散布する際は以下に注意してください。
 - 散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - 専用の粒剤散布装置によって湛水散布してください。
 - 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置の開度を調整してください。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、ほ場の端から5m以上離れてほ場内に散布してください。
 - 水源地、飲料用水などに飛散、流入しないよう十分に注意してください。
- 【豆つぶ250】
- 湛水散布または湛水周縁散布に当たっては、やや深めの湛水状態(水深5～6cm)にして水の出入りを止めてください。
 - 湛水散布の場合は田面に散布し、また、湛水周縁散布の場合は、水田周縁部に沿って帯状に散布し、散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
 - 水口施用の場合は、あらかじめ1～2cm程度水深を確保した状態で、入水時に水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させ、処理後田面水が通常の湛水状態(水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があらぬように注意してください。散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。
 - 水口に対して向かい風が吹いている場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため水口施用を控えてください。
 - 薬剤表層はく離など水面浮遊物が多い場合は、本剤の拡散が不十分になるおそれがあるため周縁散布をさせ、本剤内でも水田全面に散布してください。
 - 吸水性があるので、散布時に降雨の場合には濡れないよう注意して散布してください。濡れた手で扱わないでください。また、開封後は早急に使用してください。
- 【豆つぶ250ジャンボ】
- 雑草をまたらす栽培目的以外のイネの防除に使用する場合は、発生前が有効なので散布適期を失いように散布してください。また、必要に応じて有効な後処理剤との組み合わせで使用してください。
- 【ジャンボ】
- 散布の際は、やや深めの湛水状態(5～6cm)にして水の出入りを止めてください。
 - 散布後少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
 - 小包装(パック)のまま10アール当り10個の割合で水田に均一に投げ入れてください。
 - 薬剤表層はく離、浮き草などの水面浮遊物が多い場合は、拡散が不十分になるおそれがあるため、使用は控えてください。
 - パックに使用しているフィルムは水溶性なので、濡れた手で作業したり、降雨で破損することがないので注意してください。
- 【フロアブル】
- 本剤の使用に当たっては、使用前に容器をよく振ってください。
 - 原液湛水散布の場合は、水の出入りを止めて湛水状態(水深3～5cm)のまま水田全面にゆわわたるよう散布してください。散布後3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、散布後7日間は落水、かけ流しはしないでください。また、入水は静かに行ってください。
 - 水口施用の場合は、入水時に水口に施用し、流入水とともに水田全面に拡散させてください。処理後田面水が通常の湛水状態(水深3～5cm)に達した時に必ず水を止め、田面水があらぬように注意してください。
 - 無人航空機で原液湛水散布する際は以下に注意してください。
 - 原液湛水散布は使用機種の使用基準に従って実施してください。
 - 原液湛水散布に当たっては散布機種に適合した散布装置を使用してください。
 - 作業中、薬液の漏れのないよう機体の散布装置その他散布装置の十分な点検を行ってください。
 - 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう風の影響等を十分考慮して原液湛水散布してください。
 - 水源地、飲料用水などに飛散、流入しないよう十分に注意してください。
 - 薬剤散布に使用した装置は十分に洗浄し、薬剤タンクの洗浄廃液は安全な場所に処理してください。
 - 散布に使用した無人航空機の散布装置は、水稲以外の作物への薬剤散布には使用しないでください。
 - 薬に対して影響があるので、周辺の薬葉にはかからないようにしてください。

詳しい使い方、登録内容とSDSはこちら。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●本剤は小児の手の届く所には置かないでください。 ●防除日誌を記帳しましょう。

本資料は2023年10月現在の知見に基づき作成しています。 2348(24-3)